



綺麗に色づいた
通学路脇の蜜柑

11月に入って早々、待ちに待った実習生の入国再開のニュースが届きました。受け入れ団体や実習実施機関の皆様も、ホッと胸をなでおろしたのではないのでしょうか。また、日本で技能実習を楽しみにしていた実習生の皆さんにとっても、長い間待ち望んでいた喜びの瞬間だったことなのでしょう。当校でもようやく、きぼうの光が見えてきたことで、実習生の皆さんの受け入れ及び授業の再開に向けた準備に、これまで以上に力が入っています。関係省庁への申請書類の提出等、実際の入国までにはもう暫く時間が掛かりそうですが、入国再開後は新型コロナウイルス感染防止への配慮も含め、万全の状態でお迎えできるように、全力で事前準備に組んでいきたいと思えます。

あじけんスコープ Vol.102 ～ 第9回講師研修会が行われました ～



11月5日(金)に月例講師研修会が行われました。今月の研修では、8日(月)からの技能実習生の入国受入れ再開を受け、授業再開時から新たに使用が決まった「わたしのことばノート」を用いた授業の勉強会が行われました。午前中は3～4名の分科会に分かれて授業の指導案を作成。午後は、それぞれの分科会の代表が、自分達の作成した指導案を、模擬授業形式で披露しました。その他、授業再開時の新型コロナウイルス感染予防策についての共通理解を図る等、実習生の日本語講習再開に向けて、充実した内容の研修会となりました。

← 同僚講師を実習生役に見立てて、模擬授業を行う菅原先生

今月の実習生 番外編

～アジア研修センタースタッフ紹介その3～

今月は、当校業務管理課スタッフとして、主に実習生到着後の寮への案内(入寮対応)、及び実習生の宿泊する寮の施設管理などを担当している竹内克己(たけうちかつみ)と、関口有加里(せきぐちゆかり)の2名を紹介させていただきます。



竹内克己

関口有加里

竹内克己と申します。以前私は、外国の方とほとんど接触することがありませんでした。ですから着任当初、実習生に対してどのように接すればいいのか、とても戸惑ったことを思い出します。食習慣や生活慣習に驚くことも多々ありました。そんな私が着任当初から今でも心掛けているのは、実習生が初来日で抱く、外国での生活に対する不安を少しでも和らげ、約1カ月間となる寮生活が、実りある時間となって欲しいということです。現在、COVID-19の影響で実習生の入国がありませんが、入国再開に向け、入寮対応業務の効率化を実現し、実習生に対してより細やかな対応ができればとの思いで、その準備に励んでおります。

関口と申します。入寮対応では、玄関で靴を脱ぐ指導から始まり、家電の使い方、近隣施設の説明等をしていますが、母国で学んだはずの日本の慣習も、実際の生活となると戸惑う実習生もおります。また、来日したての実習生、特にコロナ渦の中入国される実習生は不安を隠せない実習生が多くみられます。そんな実習生達も、きぼうでの生活を経て、実習に取り組む緊張感へと変化していることに、毎回驚いております。これからも到着された実習生を笑顔で出迎え、これからの日本の生活が気持ちよく過ごせるように入寮対応をしながら、きぼうで生活できてよかったと思ってもらえるようサポートしていきたいと思っております。

あじけん流日本語授業

～入国再開後の新型コロナ感染予防対策について～

今回のあじけん流日本語授業は、入国再開後の授業、教室での新型コロナウイルス感染予防対策についてお伝えします。先日行われた講師研修会でも共通認識を図り、「感染しない、させない」授業、教室活動を行っていくことを確認しました。また、当校での感染予防対策を経験することで、実習先へ行っても引き続き、新型コロナウイルス感染に注意し、感染予防対策がきちんとできるよう、しっかりと指導をしていきたいと思っております。

<教室での対応>

- ◎実習生は登校前に検温し、37.5℃以上の発熱がある場合は、寮で待機する
※当該実習生は、同部屋の実習生に欠席することを、担当の先生に伝言してもらう
 - 教室への入室時に教室、入口に設置してある消毒液で、手及び・指の消毒をする
 - 窓・ドアの開放を適時行い、室内の換気に努める
 - 清掃時に教室の机の除菌をする
 - 清掃時に階段の手すり、トイレ、教室などのドアノブを除菌する
 - 教室での昼食に際しては、対面での飲食を禁止する（食事中の会話も控えさせる）
- 教室では、手洗いや消毒の徹底、また清掃時の除菌をしっかりと指導します。
昼食時の孤食、黙食については、生活指導時に母語でも指導を行っていきます。



<授業での対応策>

- 実習生、講師ともに教室では、必ずマスクを着用する
- 実習生が密集・密接しないようグループ活動等は控える
- 全員で声を合わせて発話するような活動は行わない



授業中はできるだけ飛沫の拡散がないよう、マスクの着用、3密の回避、全員での発声や大きな声で話さないことなどを徹底していきます。

こういった対応の中で、教室での活動については、当校の特徴である会話力の向上のために欠かせない「声を出すこと」が減ってしまうため、実習生の発話量が減少したり、教室で日本語を耳にする機会が少なくなってしまうと思われま。

しかし、制限がある中でも、出来る限り実習生の会話力が向上するよう、教室内で実習生間のソーシャルディスタンスを確保してペアでの会話練習を行う、講師との1対1の会話の時間を増やすなど、工夫を重ねていきたいと思っております。

今後、見学等にいらっしゃったときには、いつもより少しおとなしいきぼう国際外語学院の授業になると思いますが、どうぞご理解のほど、よろしく願いいたします。

